



国道7号線

下浜道路から男鹿半島を望む

秋田県内を南北に縦断する国道7号線。路線が通過しない県内陸南部の方も含め、普段からよく利用されている方も多いと思います。青森県から新潟県まで496.2km(総延長は585.9km)で、全国の国道路線距離のランキングも「第7位」。そこで今回「令和7年7月号」は「距離ランキング7位」の「国道7号線」を特集します。

古くからの街道

江戸時代からの街道として栄えてきた国道7号線は、羽州浜街道(新潟～秋田)と羽州街道の一部(秋田～青森)で構成されています。このうち、秋田以北の羽州街道の区間は1885年に国道41号線として指定されました。その後1920年に施行された旧道路法で秋田以北は国道5号線、秋田以南は国道10号線とし、起点は東京市とされました。国道7号線として指定されたのは戦後の1952年のことです。平成の大合併を経て、現在は4県17市9町を通過します。ちなみに村は路線上には存在しません。また、通過距離は秋田県が234.4kmで最も長く、全体の約47%を占めます。山形県を除き、路線上に県庁所在地が3市もあり、並行する高速道路が開通しつつある今でも、重要な路線であることには変わりありません。

バイパスあれこれ

国道7号線にもバイパス整備された区間が多数有りますが、バイパスとしての種類も多く、エピソードには事欠きません。まずはなんとと言っても「新潟(新新)バイパス」。「新潟東西道路」として交差点は全て立体交差になっているなど、高速道路並みに整備されており、国道8号線・国道116号線とあわせて36kmが開通し、現在も新潟市西部の116号線の区間では延伸工事が進められています。特に7号線の区間は「一般道路」のみの構成ですが、歩道は橋梁に設置されているだけで、それ以外は歩行者や自転車の通行が認められていません。開通当初は一般道路基準の最高速度60km/hでしたが、交通事故の危険性が低い構造であり、交通実態に見合わないことから、国土交通省と新潟県警察で協議した結果、大半の区間で2011年から最高速度が70km/hに設定されています。

一方、並行する「日本海東北自動車道」や「秋田自動車道」も国道7号線のバイパスとして整備された区間があるのをご存知ですか?「高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路」として整備された区間が該当します。これは高速道路の整備が遅れていて、今後も建設の目処が立たない地域でありながらも、国道のバイパスの整備が急務となっている区間がある場合に使われる手法です。つまり国道のバイパスを「高速道路」として整備してしまおうというわけです。現在高速道路は民営化されていますが、採算が取れないと見込まれる区間は建設費用が全額税金で賄われます。税金で賄われた道路は無料区間として供用され、今後も有料化の予定はありません。秋田県内の国道7号線では象潟～本荘間、八竜～二ツ井白神間、鷹巣～小坂間がこれに該当します。ちなみに本荘～岩城間も無料ですが、異なる整備手法で開通しており、この区間は国道7号線としての整備ではありません。



新潟バイパス紫竹山IC付近

データで見る国道7号線

国道7号線は秋田県内を縦断していますが、県外の区間については知らない人も多いと思います。ここでは「データで見る国道7号線」と称して掘り下げていきます。まずは起点と終点。起点は新潟県新潟市中央区の本町交差点。新潟市中心部の繁華街・古町にも近い場所にあり、ちょうどこの起点付近は区間が重複している国道が多い場所となっており、起点としているのが、国道7号線の他に、8号線、113号線、289号線、350号線。また終点としているのは、17号線、116号線、402号線です。一方、7号線の終点は青森県青森市の青い森公園前。ちょうど至近距離に青森県庁が存在する中心部です。こちらは交差点が終点ではなく、公園の入口が終点となっています。ちなみにこちらでも重複しており、4号線と45号線が終点、101号線が起点としています。

続いては距離。496.2kmのうち、秋田県内が最も長く234.4km、次いで新潟県が90.3km、山形県が83.7km、青森県が67.4kmです。山形県も南北に縦断しているのに、なぜ距離が短いかというと、山形県は沿岸部の南北の距離が極端に短いことが挙げられます。一方で内陸部の方が広大となっており、山形県の天気予報では内陸部が村山・最上・置賜の3地域に分けられますが、沿岸部は庄内として一括りになっていることからそれが頷けます。

おしまいは交通量。直近の令和3年のデータでは、秋田県内でもっとも交通量が多かったのが秋田市寺内蛭根。24時間あたりの交通量は37,106台でした。同様に青森県内は青森市古川2丁目目で47,678台。山形県内は酒田市両羽町で36,446台。都市規模を考えると、意外に秋田市内は少ないですが、これは商店などが少ない地域で、中心部に近い新国道などへ交通の分散が図られているためです。さて、新潟県以外では最大30,000台～40,000台が走る国道7号線ですが、やはり新潟県は群を抜いて多く、前述の新潟バイパス・新潟市東区紫竹6丁目目ではその倍以上となる101,768台。信号のない区間で車線数も多く、より多くの交通量を捌くことができている。実際、これは日本でも上位の交通量となっており、一般道交通量ランキングでは第17位。他にも新潟バイパスの区間は上位の常連となっており、特に紫竹6丁目目からも程近い、同じ新潟バイパスの国道8号線・新潟市中央区紫竹山6丁目目は127,838台でなんと第2位でした。

伸社長が行く! 突撃!!隣のお客様

秋田市雄和・電動化システム共同研究センター
秋田大学特任教授 **沓澤圭一** 様



今回は、秋田市雄和にある電動化システム共同研究センターの沓澤圭一・秋田大学特任教授にお話しを伺いました。電動化システム共同研究センターは、航空機システム電動化に関する研究開発を行っていますが、主要な研究開発施設は、廃校となった種平小学校を改修、整備した新世代モーター特性評価ラボになります。特性評価ラボ内には、実寸大の航空機システム試験設備や大出力モーターの特性試験装置が整備され、航空機システム電動化に向けたモーター開発や様々な評価試験が行われています。沓澤特任教授は、事業企画立案・実施や新世代モーター特性評価ラボにおける試作試験・受託試験の支援などを担当しています。各航空機メーカーの設計に組み入れてもらえるように企業の協力を得ながら研究を進めているそうです。近い将来、秋田の地で生まれた技術が世界で活躍する日が楽しみです。貴重なお話ありがとうございました。



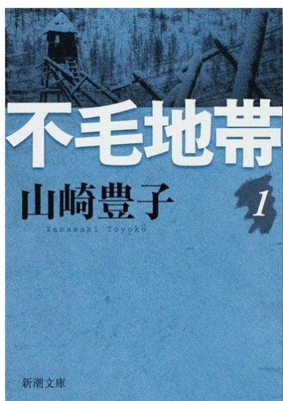
電動化システム共同研究センター

内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」の支援を受け、2021年、秋田大学と秋田県立大学が共同で設置。センターの傘下に設置された新世代モーター特性評価ラボには、モーター特性試験装置やシステム試験設備(カッパフェザ)などが整備されていて、これらの設備は、民間企業への貸出も行っており、様々な評価試験に活用されています。特にモーター特性試験装置は、試験容量400kWまで対応可能で国内最大級の装置。また、センターでは、「人材育成プログラム」も行っており、小中高生向けの出前授業や女性エンジニア育成のためのセミナーも実施しています。

第20回 優勝は長谷川厚(五十鈴製作所)さん



第20回麻雀記念大会が6月28日、協働大町ビルで開催されました。過去最大規模の36名の方にご参加頂き、大盛況となりました。接戦となる中で、優勝したのが五十鈴製作所・長谷川厚さん。五十鈴製作所からは毎回多数ご参加頂いており、優勝者も多数輩出している強豪ですが、長谷川さんは今回初優勝でした。特に2回戦で他の参加者を大きく引き離し、安定した強さを発揮しました。スコアは70,400点。2位のスコアが44,500点でしたので、まさに「一人勝ち」でした。今年も参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



読書家・伸社長がオススメ! BookWatcher

不毛地帯

山崎豊子著/新潮文庫刊
2009年発売(文庫版) 定価1,155円(税込)
※写真と上記価格は第一巻

オススメの1冊を紹介する「BookWatcher」。毎月伸社長が厳選した1冊を紹介しています。今回は山崎豊子の「不毛地帯」です。

この小説は私が社会人になりたての今から40年前に書かれた小説で、その頃に一度読んでいるが、ロシアの最近のウクライナ侵攻やプーチン大統領の横暴な行動を見ていて、そう言えば、第二次世界大戦後のシベリア抑留について詳しく書いた本があったな!!と思い出して再読したのでした。

山崎豊子と言えば、中国残留孤児を扱った「大地の子」や日航機墜落事故を取り上げた「沈まぬ太陽」などの社会的な問題が多く、この作品も伊藤忠商事の瀬島龍三氏がモデルだとされています。

内容:大本営参謀・終戦工作に尽力し、強制労働で名高い極寒のシベリアで1年間も抑留され地獄から生還した男・壹岐正は、近畿商事の商社マンとして大門社長の下で第二の人生を歩む。自衛隊への戦闘機の売り込み、自動車メーカーの米国企業との連携、中東での石油開発などを手掛けて、ついには副社長まで上りつめる。ライバル企業の鯨島との格闘、軍人時代の上官の娘さんとの恋愛などを織り交ぜながら話が進んでいく…総ページ数2400枚にも及ぶ大作です。皆さんもご一読ください…

■山崎豊子著 不毛地帯(文庫版)
第2巻～第5巻 2009年発売 定価1,100円(税込)
※第4巻は定価1,045円(税込)
※文庫版の他に電子書籍版やAmazon Audible版でも発売されている。

ちょっと一杯!
もう一杯!! ペロペロ通信

滋賀県甲賀市 瀬古酒造
純米吟醸 忍者NEO無濾過生

原料: 滋賀県産美山錦100%
日本酒度: 非公開 アルコール: 17%

今回も滋賀県甲賀市から、その名も「忍者」を紹介します。甲賀市といえば、伊賀と並ぶ忍者の里。市内には忍者に関連した観光施設も数多く存在します。さて、そんな忍者の名前を冠した日本酒を醸造する瀬古酒造は甲賀市内でも、市街地の南部にあります。鈴鹿山系の伏流水と地元産の酒米で醸されたこの1本はやや辛口で濃厚さがある一方、喉越しはすっきり。果実香がスツと抜けていきます。濃厚さがあるので、料理は味の濃いものではない方がいいような気がします。これからの時期だと、個人的には冷や奴や枝豆のような、夏らしい淡泊なもので合わせるとちょうどいいかもしれません。キンキンに冷やして楽しみたいところです。720ml 1,650円(税込)。

■編集後記
今月の特集は国道7号線でした。昔に比べれば道路交通はだいぶ改善されましたが、バイパスが必要なところはまだまだ多いと思います。秋田市内では現在秋田南バイパスの拡幅工事が始まっています。新屋～桂浜付近と割山～臨海付近のあわせて約6.3kmを4車線化する工事ですが、特に朝夕は非常に渋滞が激しい区間なので、完成が楽しみです。

北東北・イベントあれこれ 2025/8

- 3日 青森・外ヶ浜町/外ヶ浜町港まつり
外ヶ浜町の海の幸が堪能できる。ホタテ焼き、棒パン焼きなどを提供。また、物産販売や郷土芸能も楽しめる。
- 10日 潟上市(昭和)/第5回八郎まつり
祭りのシンボルである体長64メートルの太郎龍と辰子龍が、約80人の担ぎ手により担がれ市内を練り歩く。
- 15日 岩手・一関市大東/大原だるま祭り若者と子どもが手作りのジャンボだるまを担ぎ、大原商店街を駆け抜けたのち、そのだるまを河川敷で焼き上げる。

美味しいモノ図鑑 かんぱち

高級魚としてお馴染みの「かんぱち」。アジ科に属し、同種では「ひらまさ」に次ぐ大型魚で、全長は約1mほど。通年で漁獲されますが、旬は夏とされます。20～30度の水温を好み、日本では東北以南に分布しています。ちなみに水温13度以下では死んでしまうんだとか。夏は日本近海を北上、冬は逆に南下し、回遊魚とされます。群れで泳ぐ魚ですが、1匹の行動が停まるなどの個体も留まることから、釣りでは続けて釣れやすいそうです。また、鹿児島湾では養殖も盛んに行われており、同県垂水市が出荷額日本一となっています。食用としては刺身や寿司など生食が人気ですが、焼き物やしゃぶしゃぶとしても美味です。これからの時期、お酒と一緒に楽しみたいですね。

三栄機械器具株式会社
〒010-0065 秋田県秋田市茨島2-9-35
TEL 018-862-3105 FAX 018-863-0924
企画・編集 佐々木隆貴

Facebook, X, Instagram icons and text: 三栄機械器具 検索